

第8回経営審議会資料の修正について

第8回経営審議会（令和5年10月12日開催）において使用した資料について、委員の皆様から「表現方法について疑義が生じないように修正が必要」との御意見があったことを踏まえ、次のとおり修正案を作成しましたので、事前に送付します。

なお、資料の修正に伴い、答申書（案）についても、意見の内容を反映しています。

1 資料12「いわき市水道事業 事業評価(令和4年度事業)について」

(1) 46ページ「まとめ」における、「業務指標評価」について

ア 委員からの意見

黄色着色部分と表現した理由については、「本市と類似団体との比較対象年度が令和4年度と令和3年度と違うためである。」との説明を受けたが、この表現が独り歩きしてしまう懸念があるので、この部分に関しては、正確な事業評価となるよう修正する必要がある。

イ 修正内容

類似団体との比較についての文言を削除。

ウ 新旧対照

修正前

「いわき水みらいビジョン2031」の初年度となる令和4年度は、目指すべき将来像の実現に向けた歩みを着実に進めるため、「安全」、「強靱」、「持続」の3つの方向性と基本方針の下、各種事業を実施してきました。

「実施事業評価」については、66事業のうち60事業が最高評価である「A評価」、「B評価」が4事業、「D評価」、「E評価」がそれぞれ1事業となりました。

なお、9つの主要事業のうち、「水道施設更新事業」、「水道施設停電対策事業」、「基幹浄水場連絡管整備事業」の3事業については、主に、新型コロナウイルス感染拡大を起因とする工場稼働制限や世界的な半導体供給不足の影響という不可抗力的な出来事が要因となり、繰越などが生じたため、「A評価」を達成できませんでしたが、繰越した事業は令和5年度に完了し目標を達成する見込みです。

「業務指標評価」については、電気料金の高騰に伴う動力費の増加や、給水人口の減に伴う給水収益の減少などにより、財務に関わる指標が悪化しており、この要因により類似団体との乖離が拡大している状況にあります。また、災害対策に関する指標のうち「管路の耐震管率」などについては改善傾向にありますが、類似団体に比べ低い状況にあります。

今後も、今回の事業評価の結果を事業運営に反映するとともに、より効率的かつ効果的に事業を着実に実施することで、基本理念「未来に引き継ぐいわきの水道 ～安全でおいしい水を必要なだけ～」の実現に向けて各種事業に取り組んでまいります。

修正後

「いわき水みらいビジョン2031」の初年度となる令和4年度は、目指すべき将来像の実現に向けた歩みを着実に進めるため、「安全」、「強靱」、「持続」の3つの方向性と基本方針の下、各種事業を実施してきました。

「実施事業評価」については、66事業のうち60事業が最高評価である「A評価」、「B評価」が4事業、「D評価」、「E評価」がそれぞれ1事業となりました。

なお、9つの主要事業のうち、「水道施設更新事業」、「水道施設停電対策事業」、「基幹浄水場連絡管整備事業」の3事業については、主に、新型コロナウイルス感染拡大を起因とする工場稼働制限や世界的な半導体供給不足の影響という不可抗力的な出来事が要因となり、繰越などが生じたため、「A評価」を達成できませんでしたが、繰越した事業は令和5年度に完了し目標を達成する見込みです。

「業務指標評価」については、電気料金の高騰に伴う動力費の増加や、給水人口の減に伴う給水収益の減少などにより、財務に関わる指標が悪化しています。

今後も、今回の事業評価の結果を事業運営に反映するとともに、より効率的かつ効果的に事業を着実に実施することで、基本理念「未来に引き継ぐいわきの水道 ～安全でおいしい水を必要なだけ～」の実現に向けて各種事業に取り組んでまいります。

2 資料13 「令和4年度いわき市水道事業決算の概要について」

(1) 11 ページ「経営分析（総括）」における、「⑥施設利用率」について

ア 委員からの意見

黄色着色部分『施設の効率性を高める対策を進める必要がある。』という表現については、今後、更に対策が必要であるかの様な印象を受ける為、誤解を招かないよう工夫した方が良いと考える。

イ 修正内容

「施設の効率性を高める対策」については、施設のダウンサイジングや施設の廃止等の対策を計画どおり進めていくものであることから、「引き続き計画どおり」の文言を追加。

ウ 新旧対照

修正前	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> 2-2. 経営分析（総括） </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>経営の健全性・効率性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「①経常収支比率」及び「④料金回収率」は、ともに100%以上ではあるものの、全国平均・類似団体平均は下回っており、収益性は悪化している。 ○ 「②流動比率」は、100%を大きく上回っており、令和4年度決算においても200%を超えているため、短期的な財務状態は良好。 ○ 「③企業債残高対給水収益比率」は、全国平均や類似団体平均を上回っているが、企業債残高の増高抑制で減少傾向となっており、引き続き企業債の適正管理に努めていく必要がある。 ○ 「⑤給水原価」は、全国平均や類似団体平均を上回っているが、これは、広域で起伏に富む本市の地勢や、複数の中小河川への依存により、固定資産を多く保有せざるを得ないことによる資本費（※）の割合の高さが要因。（※）資本費＝減価償却費＋企業債利息－長期前受金戻入 ○ 「⑥施設利用率」は、全国平均や類似団体平均を下回っており、施設のダウンサイジングなど、施設の効率性を高める対策を進める必要がある。 ○ 「⑦有収率」は、類似団体平均を下回っているが、老朽化対策や漏水防止対策を強化しており、改善傾向となっている。今後も更新需要は増大することから、「水道施設総合整備計画」（管路整備計画）に定めた標準使用年数のみによることなく、これまで以上に効率的な更新に努めることが必要となる。 <p>老朽化の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「有形固定資産減価償却率」は、全国平均や類似団体平均を下回っており、全国平均や類似団体平均と比較し、全体的な施設の老朽化の度合いはやや良好。 ○ 「管路経年化率」は、類似団体や全国平均を上回っており、全国平均や類似団体平均と比較し、管路の老朽化の度合いが高い。 ○ 「管路更新率」は、「老朽管更新事業」の成果により、全国平均や類似団体平均を大きく上回っている。 </div> </div>
修正後	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> 2-2. 経営分析（総括） </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>経営の健全性・効率性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「①経常収支比率」及び「④料金回収率」は、ともに100%以上ではあるものの、全国平均・類似団体平均は下回っており、収益性は悪化している。 ○ 「②流動比率」は、100%を大きく上回っており、令和4年度決算においても200%を超えているため、短期的な財務状態は良好。 ○ 「③企業債残高対給水収益比率」は、全国平均や類似団体平均を上回っているが、企業債残高の増高抑制で減少傾向となっており、引き続き企業債の適正管理に努めていく必要がある。 ○ 「⑤給水原価」は、全国平均や類似団体平均を上回っているが、これは、広域で起伏に富む本市の地勢や、複数の中小河川への依存により、固定資産を多く保有せざるを得ないことによる資本費（※）の割合の高さが要因。（※）資本費＝減価償却費＋企業債利息－長期前受金戻入 ○ 「⑥施設利用率」は、全国平均や類似団体平均を下回っており、施設のダウンサイジングなど、引き続き計画どおり施設の効率性を高める対策を進める必要がある。 ○ 「⑦有収率」は、類似団体平均を下回っているが、老朽化対策や漏水防止対策を強化しており、改善傾向となっている。今後も更新需要は増大することから、「水道施設総合整備計画」（管路整備計画）に定めた標準使用年数のみによることなく、これまで以上に効率的な更新に努めることが必要となる。 <p>老朽化の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「有形固定資産減価償却率」は、全国平均や類似団体平均を下回っており、全国平均や類似団体平均と比較し、全体的な施設の老朽化の度合いはやや良好。 ○ 「管路経年化率」は、類似団体や全国平均を上回っており、全国平均や類似団体平均と比較し、管路の老朽化の度合いが高い。 ○ 「管路更新率」は、「老朽管更新事業」の成果により、全国平均や類似団体平均を大きく上回っている。 </div> </div>

(2) 17 ページ「補填財源・資金残額」における、「資金残額」について

ア 委員からの意見

黄色着色部分の表現については、令和8年度から資金不足が生じる見込みであるにも関わらず、令和9年度から資金不足が生じる見込みであるというような説明に見えてしまうため、例えば、『令和9年度に見込まれていた資金不足額が、財政計画に比し多くなった。』とするなど、表現の仕方を再度検討した方が良い。

イ 修正内容

「令和9年度に生じる見込みとされていた資金不足額が、財政計画に比べ、さらに増加する見込みである」に修正。

ウ 新旧対照

修正前

●補填財源・資金残額		(単位：億円)										
区分		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
補填財源	財政計画(A)	95.3	90.2	83.1	68.0	54.8	45.1	38.1	33.2	23.4	16.4	
	決算(見込)額(B)	120.2	105.5	87.3	66.3	53.1	43.4	36.4	31.5	21.7	14.7	
	差(B-A)	24.9	15.3	4.2	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	
資金残額	財政計画(A)	45.8	36.4	25.6	13.0	0.6	△3.4	△8.9	△18.6	△26.2	△34.5	
	決算(見込)額(B)	67.2	40.6	23.9	11.3	△1.1	△5.1	△10.6	△20.3	△27.9	△36.2	
	差(B-A)	21.4	4.2	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	

収益的収支

- 令和4年度決算では純利益が0.1億円の減となったが、令和5年度予算では純利益が給水人口の減に伴う給水収益の減や電気料金の高騰に伴う動力費の増などにより、5.5億円の減となり、**期間全体で5.6億円減**

資本的収支

- 建設改良工事の繰越が計画期間前から続いていることにより、**期間全体で支出が39.4億円増となり、支出に伴う財源(収入)が期間全体で18.9億円の増となることから、資本的収支不足額は期間全体で20.5億円増**

資金残額

- 計画期間前から繰越により損益勘定留保資金が増となったものの純利益の減や資本的収支不足額の増等により、**令和13年度末時点の資金残高が1.7億円の減**
- 令和9年度には資金不足が見込まれ、**見込まれる不足額が財政計画に比し多い**ことから、厳しい財政状況であることには変わりはない。
- 財政収支計画比較で資金不足額の増大が見込まれるため、**料金改定率や起債充当率の調整が生じる可能性がある。**

修正後

●補填財源・資金残額		(単位：億円)										
区分		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
補填財源	財政計画(A)	95.3	90.2	83.1	68.0	54.8	45.1	38.1	33.2	23.4	16.4	
	決算(見込)額(B)	120.2	105.5	87.3	66.3	53.1	43.4	36.4	31.5	21.7	14.7	
	差(B-A)	24.9	15.3	4.2	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	
資金残額	財政計画(A)	45.8	36.4	25.6	13.0	0.6	△3.4	△8.9	△18.6	△26.2	△34.5	
	決算(見込)額(B)	67.2	40.6	23.9	11.3	△1.1	△5.1	△10.6	△20.3	△27.9	△36.2	
	差(B-A)	21.4	4.2	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	△1.7	

収益的収支

- 令和4年度決算では純利益が0.1億円の減となったが、令和5年度予算では純利益が給水人口の減に伴う給水収益の減や電気料金の高騰に伴う動力費の増などにより、5.5億円の減となり、**期間全体で5.6億円減**

資本的収支

- 建設改良工事の繰越が計画期間前から続いていることにより、**期間全体で支出が39.4億円増となり、支出に伴う財源(収入)が期間全体で18.9億円の増となることから、資本的収支不足額は期間全体で20.5億円増**

資金残額

- 計画期間前から繰越により損益勘定留保資金が増となったものの純利益の減や資本的収支不足額の増等により、**令和13年度末時点の資金残高が1.7億円の減**
- 令和9年度に生じる見込みとされていた資金不足額が、**財政計画に比べ、さらに増加する見込みである**ことから、厳しい財政状況であることには変わりはない。
- 財政収支計画比較で資金不足額の増大が見込まれるため、**料金改定率や起債充当率の調整が生じる可能性がある。**



IV まとめ



「いわき水みらいビジョン2031」の初年度となる令和4年度は、目指すべき将来像の実現に向けた歩みを着実に進めるため、「安全」、「強靱」、「持続」の3つの方向性と基本方針の下、各種事業を実施してきました。

「実施事業評価」については、66事業のうち**60事業が最高評価である「A評価」、「B評価」が4事業、「D評価」、「E評価」がそれぞれ1事業**となりました。

なお、9つの主要事業のうち、「水道施設更新事業」、「水道施設停電対策事業」、「基幹浄水場連絡管整備事業」の3事業については、主に、新型コロナウイルス感染拡大を起因とする工場稼働制限や世界的な半導体供給不足の影響という**不可抗力的な出来事が要因となり、繰越などが生じたため、「A評価」を達成できませんでしたが、繰越した事業は令和5年度に完了し目標を達成する見込み**です。

「業務指標評価」については、**電気料金の高騰に伴う動力費の増加や、給水人口の減に伴う給水収益の減少などにより、財務に関わる指標が悪化**しています。

今後も、今回の事業評価の結果を事業運営に反映するとともに、より効率的かつ効果的に事業を着実に実施することで、基本理念「未来に引き継ぐいわきの水道 ～安全でおいしい水を必要なだけ～」の実現に向けて各種事業に取り組んでまいります。



2-2. 経営分析（総括）

経営の健全性・効率性

- 「①経常収支比率」及び「④料金回収率」は、ともに100%以上ではあるものの、全国平均・類似団体平均は下回っており、収益性は悪化している。
- 「②流動比率」は、100%を大きく上回っており、令和4年度決算においても200%を超えているため、短期的な財務状態は良好。
- 「③企業債残高対給水収益比率」は、全国平均や類似団体平均を上回っているが、企業債残高の増高抑制で減少傾向となっており、引き続き企業債の適正管理に努めていく必要がある。
- 「⑤給水原価」は、全国平均や類似団体平均を上回っているが、これは、広域で起伏に富む本市の地勢や、複数の中小河川への依存により、固定資産を多く保有せざるを得ないことによる資本費（※）の割合の高さが要因。（※）資本費＝減価償却費＋企業債利息－長期前受金戻入
- 「⑥施設利用率」は、全国平均や類似団体平均を下回っており、施設のダウンサイジングなど、引き続き計画どおり施設の効率性を高める対策を進める必要がある。
- 「⑦有収率」は、類似団体平均を下回っているが、老朽化対策や漏水防止対策を強化しており、改善傾向となっている。今後も更新需要は増大することから、「水道施設総合整備計画」（管路整備計画）に定めた標準使用年数のみによることなく、これまで以上に効率的な更新に努めることが必要となる。

老朽化の状況

- 「有形固定資産減価償却率」は、全国平均や類似団体平均を下回っており、全国平均や類似団体平均と比較し、全体的な施設の老朽化の度合いはやや良好。
- 「管路経年化率」は、類似団体や全国平均を上回っており、全国平均や類似団体平均と比較し、管路の老朽化の度合いが高い。
- 「管路更新率」は、「老朽管更新事業」の成果により、全国平均や類似団体平均を大きく上回っている。





●補填財源・資金残額

(単位：億円)

区分		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
補填財源	財政計画 (A)	95.3	90.2	83.1	68.0	54.8	45.1	38.1	33.2	23.4	16.4
	決算 (見込) 額 (B)	120.2	105.5	87.3	66.3	53.1	43.4	36.4	31.5	21.7	14.7
	差 (B - A)	24.9	15.3	4.2	△ 1.7	△ 1.7	△ 1.7	△ 1.7	△ 1.7	△ 1.7	△ 1.7
資金残額	財政計画 (A)	45.8	36.4	25.6	13.0	0.6	△ 3.4	△ 8.9	△ 18.6	△ 26.2	△ 34.5
	決算 (見込) 額 (B)	67.2	40.6	23.9	11.3	△ 1.1	△ 5.1	△ 10.6	△ 20.3	△ 27.9	△ 36.2
	差 (B - A)	21.4	4.2	△ 1.7	△ 1.7	△ 1.7	△ 1.7	△ 1.7	△ 1.7	△ 1.7	△ 1.7

収益的収支

- 令和4年度決算では純利益が0.1億円の減となったが、令和5年度予算では純利益が給水人口の減に伴う給水収益の減や電気料金の高騰に伴う動力費の増などにより、5.5億円の減となり、期間全体で5.6億円減

資本的収支

- 建設改良工事の繰越が計画期間前から続いていることにより、期間全体で支出が39.4億円増となり、支出に伴う財源（収入）が期間全体で18.9億円の増となることから、資本的収支不足額は期間全体で20.5億円増

資金残額

- 計画期間前から繰越により損益勘定留保資金が増となったものの純利益の減や資本的収支不足額の増等により、令和13年度末時点の資金残高が1.7億円の減
- 令和9年度に生じる見込みとされていた資金不足額が、財政計画に比べ、さらに増加する見込みであることから、厳しい財政状況であることには変わりはない。
- 財政収支計画比較で資金不足額の増大が見込まれるため、料金改定率や起債充当率の調整が生じる可能性がある。